

いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

診療局長就任にあたって

いわき市立総合磐城共立病院
診療局長 杉 正文



平成29年1月13日に行われた「第14回新春賀詞交歓会」におきましては、数多くの医療機関の皆様にご足運りでいただき、貴重な情報交換の場となりましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

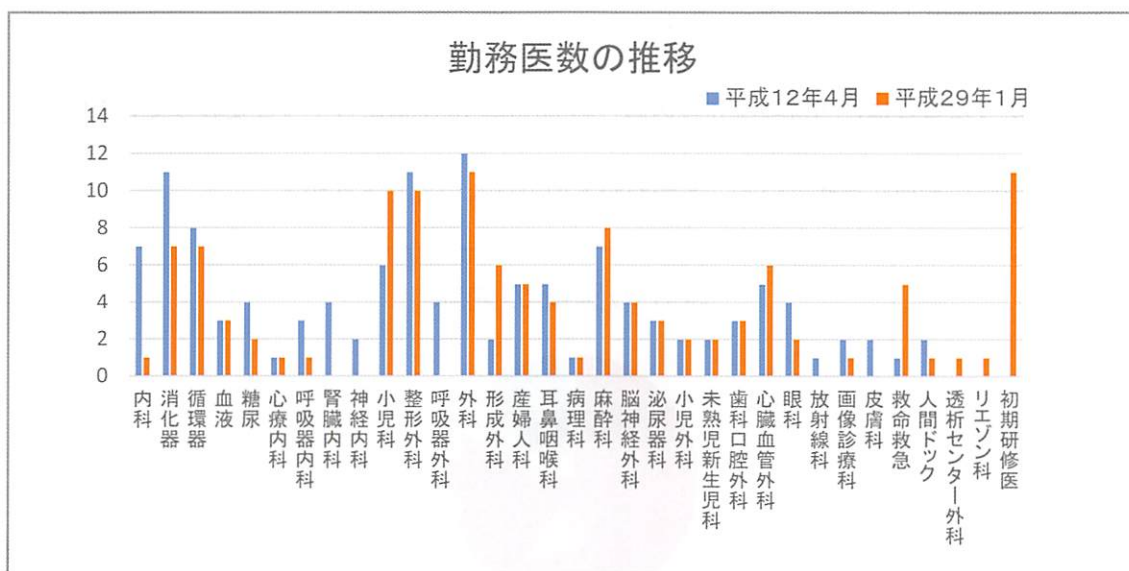
私は平成28年4月1日より総合磐城共立病院の診療局長に就任いたしました、循環器内科の杉 正文と申します。

「平成」という年号も30年で幕を下ろすかどうか議論となっています。当院は、その「平成」の最後の年30年の12月に新病院開設となり、新しい年号は新病院で迎えることとなりそうです。「時代」に思いを馳せ、私が当院に着任した頃と現在を比較してみたいと思います。

まずは、私が着任した平成12年4月と現在、平成29年1月との勤務医の数の推移をグラフにしてみました。（当時は、現在のような臨床研修医制度はなく、研修医の1年目、2年目は内科系は内科で、外科系は外科で研修をしていたため、現在の初期研修医の数と比較する対象がないことを申し添えます。）

この表から気付くこと；一目瞭然とは思いますが、常勤医がいなくなった診療科が多数存在する。

—腎臓内科、神経内科、呼吸器外科、放射線科、皮膚科の常勤医がいなくなった—



【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

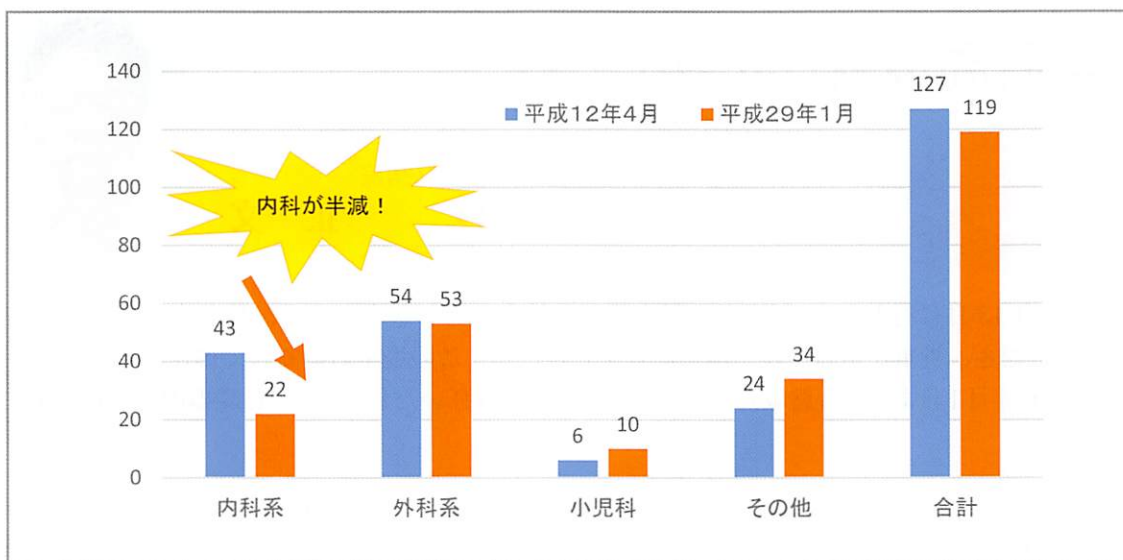
電話 0246 (26) 2250 (直通) FAX 0246 (26) 2119
 U R L <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>
 E-mail kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp



地域医療連携室だより

昨日、入院患者さん（脳梗塞）のご家族から、共立病院にお願いしたのに、どうして神経内科の先生がいないのですかと詰問されました。10年も前から神経内科常勤医はいないのに、色々と広報でもお知らせしているのに、共立病院の状況は理解されていないようです。共立病院に送ればなんとかなるという考えは過去の遺物です。

そして、大きな括りで比較してみると、医師総数はそう大きく変化していないにもかかわらず、内科系が15年前と比較して43人から22人と約半分に減っていることがわかります。



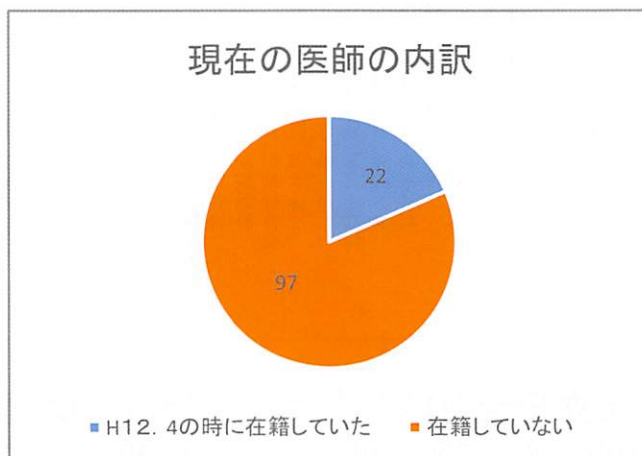
私は常々、病院においては外科が表舞台であり、内科はそれを支える縁の下の力持ちだと思っています。患者様のいろいろな病態解明を内科が行い、その結果、手術が必要となった場合には、外科をお願いをして一気に手術を行ってもらい、治癒を目指す。これが病院の醍醐味であると考えています。

ところが、このグラフからわかることは、外科を支える「縁の下」であるはずの内科が、今、支えきれずに疲弊してきている状態であるということです。内科全体の仕事量はほぼ変わりませんので、人数半減により各内科医の仕事量はほぼ2倍になっています。

更に、今後呼吸器内科も常勤医が不在となりそうで、逆風は続きます。

また、今回分かったことは、当院の現在の医師の約20%が15年前からずっと変わっていないということです。

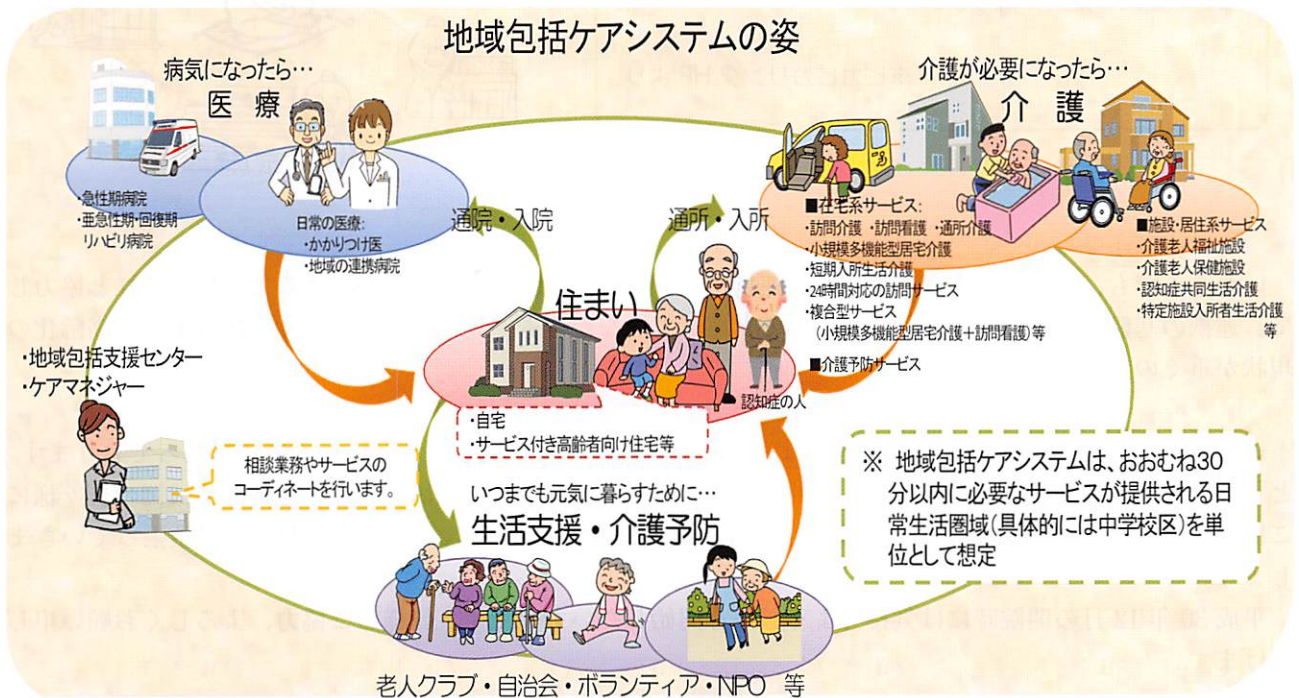
高齢化の波が当院にも押し寄せていることがわかるのではないのでしょうか？



当病院における病院機能は多くの負担の元にか維持されている状態です。

現在、厚生労働省は「団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしの人生を人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム」を構築しようとしています。

「病院完結型」ではなく「地域完結型」に向かっている今、かかりつけ医、介護施設、病院は連携して、患者さんの疾病管理を行い、いかにQOLを下げずに病気と付き合っていくかを教育し、日々の診療、管理はかかりつけ医で、増悪の場合は病院で…と、役割を分担していく「病病連携・病診連携」の力が重要となってきます。



厚生労働省HP「地域包括ケアシステム」より

この地域包括ケアシステムの中で「保健者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要」と謳われているため、全国に目をやると、実際に地域医療連携ネットワークを展開しているところも増えてきています。

栃木県医師会が中心となって展開している「とちまるネット」では、患者さんの同意のもと、診療提供施設に保管されている診療情報を医療機関の間で共有して診療に役立てているそうです。

栃木県地域医療連携ネットワーク

とちまるネット

患者さんの同意のもと、診療情報を医療機関の間で共有して役立てる栃木県全域のネットワークです

平成 29 年 1 月 31 日現在
「とちまるネット」に登録している
情報提供施設： 23 施設
閲覧施設： 291 施設

※とちまるネットHPより

この閲覧施設の 291 施設の内訳は病院が 23 施設、診療所が 265 施設、その他施設（介護老人施設等）が 3 施設ということで、まさに地域が一体となってネットワーク展開していることがわかります。

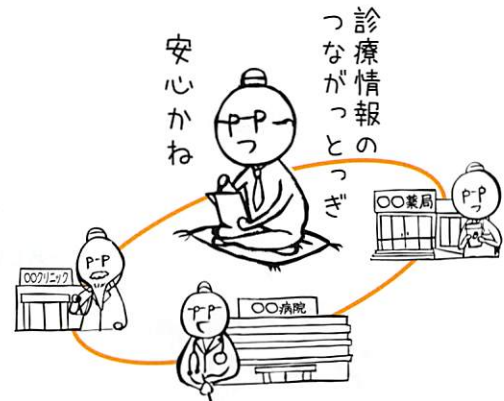
地域医療連携室だより

また、同じように佐賀県でも「ピカピカリンク」という診療情報地域連携システムを展開しています。こちらも、開示施設 13 施設、閲覧施設 253 施設、登録患者 22,180 名と活発に活動しているようです。

ピカピカリンクとは

「佐賀県診療情報地域連携システム」の愛称です。
患者の同意の下、その診療情報を、連携する医療機関等で相互に閲覧可能とすることで、医療の質の向上や地域医療連携の推進に寄与します。

※ピカピカリンク HP より



いわき市でも、将来このような地域医療連携ネットワークを展開することができるように、皆様と協力して、連携の基盤づくりをしていく必要があると感じていながらも、先に書いたとおりの医師不足、高齢化の現状が重くのしかかっております。

いわき市の「最後の砦」としての自覚は、当院の全ての医師が持ちながら日々診療に当たっております。どうぞ、この危機的状況を打破すべく、共立病院のみならず、地域の住民の皆様、連携医療機関の皆様にご協力いただき、新病院開設までには少しでも状況が改善するように、「オールいわき」で頑張っていきたいと思います。

平成 30 年 12 月の開院時には気持ちよく診療を開始したいものです。皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。



磐城共立高等看護学院は 50 周年を 迎えます

磐城共立高等看護学院

学院長 岩橋 成 寿



1. 沿 革

総合磐城共立病院は昭和 25 年に開設されましたが、当時、福島県浜通には、看護師養成施設が一カ所もなく、看護師確保に困難を極めていました。そのため、初代院長である畠山靖夫院長が自力で養成することを決意され、昭和 43 年 4 月 15 日に総合磐城共立病院の中に本校を開校されました。昭和 45 年 10 月に校歌と校章が制定されています。そして、昭和 59 年 3 月に現在地に現校舎が建築されて移転し、翌 60 年 3 月に体育館が完成しました。平成 8 年 1 月 4 日に、専修学校認可(福島県教育委員会指令第 1 号)を受けています。

平成 28 年 3 月までに、1741 名の卒業生が巣立ち、医療・福祉の分野を担って活躍しています。平成 29 年の今年は本学院開設 50 周年にあたり、4 月には第 50 期生が入学予定です。

2. 教育理念

本校では、生命の尊厳と個人の尊厳を基盤とし、主体的に考え判断する能力を培い、広い視野と科学的な思考に裏付けられた実践力を身につけ、将来、地域医療の中心的な担い手となり、保健・医療・福祉の発展に貢献できる看護師の育成を目指します。

学院長としては、“清く、優しく、賢い”看護師を育てたいと願いつつ学生の教育にあたっています。

3. 職員紹介

平成 23 年春に、渡邊信雄元学院長が退職され、阿部道夫前学院長が就任しました。同時に、私が副学院長に就任しました。そして阿部学院長が平成 27 年 3 月に退職されたため、平成 27 年 4 月から私が学院長に就任いたしました。

当学院の専任教員は、高木文子教務主任以下、計 14 名の体制です。授業と実習を担当するのみならず、学生の健康状態や精神状態にも気を配り、がっちりスクラムを組んで手厚く指導に当たっています。

事務職員は 3 名で、学院の事務と管理一般を行い、学生生活が円滑に進むよう支援してくれています。

尚、本院消化器科の池田智之医師が学生の健康管理を担当してくれています。



写真 1. 教員一同(親和会：平成28年4月28日、遠野オートキャンプ場にて)

4. 学生の生活

主な年間行事を表1に示しました。看護学生にとっては、キャンドルサービスと看護宣誓を行う看護宣誓式が最も心に残る行事かもしれません。式中には教員も、おごそかで心を洗われるように感じます。

看護宣誓式の様子と実習中のスナップを写真2-5に示します。

表1. 年間行事

月	行事	月	行事
4月	入学式 新入生歓迎行事 親和会 (全学生・教員で野外炊飯) 健康診断	9月	看護宣誓式 文化祭・文化祭特別講演
		10月	防災訓練
		2月	看護師国家試験(3年生)
8月	福島県立医大での解剖 実習見学(2年生)	3月	卒業式・卒業記念講演 卒業を祝う会(3年生)



写真2. 看護宣誓式
(ナイチンゲール像から誓いの灯火を受け取って)



写真3. 看護宣誓式(ろうそくの灯火を胸に誓いの言葉を述べる)



写真4. 実習風景（総合磐城共立病院病棟）



写真5. 実習風景（学院実習室）

5. 実習協力施設

臨地実習は、総合磐城共立病院が主たる実習場ですが、本院では行えない精神看護や老年看護の実習などを、市内の多くの施設のご協力により行っています。平成28年度の実習協力施設を表2に示します。臨地実習は、学生がたくさんのことを学ぶ大切な機会です。この場をお借りして、ご協力を賜っている各施設の職員の方々に感謝申し上げます。

また、名前は上げませんでした。非常勤講師として講義をお願いしている、いわき明星大学の先生方、福島高専の先生方、そして専門科目の講義を担当していただいている、市内各病院の先生方、本院OBの先生方、本院各科の先生方にもこの場を借りて感謝申し上げます。

表2. 本院以外の実習協力施設（平成28年度）

病 院	磐城済世会舞子浜病院
市	いわき市保健所
医療型障害児入所施設・療養介護事業所	福島整肢療護園
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	いわさき荘、かしま荘、せいざん荘、亀齢荘、楽寿荘、幸寿苑、高砂荘、ハートフルなこそ
介護老人保健施設(老人保健施設)	四季庵、佳勝園
訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン	かしま訪問看護ステーション よつくら訪問看護ステーション 医療生協訪問看護ステーションかもめ

6. 学生の進路状況

過去3年間の卒業生の進路状況は表3のとおりです。なるべくいわき市内に残って看護師として活躍してもらいたいと考えていますが、若い学生の胸に、“進学してさらに勉強したい”、あるいは“大学病院で先進的な看護を学んでみたい”、という希望が生まれることを押さえつけることはできません。一旦いわき市を離れても、いずれ更に成長して、いわき市に戻って来ることを期待して送り出しています。

表3. 過去3年間の学生の進路

		25年度	26年度	27年度
進学	保健師	3名	3名	—
	助産師	1名	1名	3名
	養護教諭	1名	—	1名
	大学編入	—	1名	—
就職	いわき市内	23名	22名	33名
	福島県内	2名	—	—
	福島県外	8名	8名	4名

7. 結びに

先に述べたとおり、本学院は開設50周年を迎えます。9月には、記念式典と同窓会を開催する予定で、準備を進めています。是非、本学院OB・OGの皆様には御参集いただき、先輩・同輩・後輩との旧交を温めていただければと思います。

いわき市内では、看護師不足が続いていますが、今年4月からいわき明星大学に看護学部が開設されます。それによって、市内の看護師を志望する高校生の進路選択に影響が生じるのか、注意を払って行く所存です。

最後に、本学院の各実習協力施設の皆様、非常勤講師の皆様、本学院生および保護者の皆様、卒業生の皆様、今後とも本学院の運営へのご協力・ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



地域がん診療連携拠点病院

第6回市民公開講座

開催
目的

当院は、地域がん診療連携拠点病院として、地域に対するがんの診療や治療に関する普及、啓発を目的に、平成26年度より市民公開講座を定期的（年2回）に開催しています。
平成28年11月26日（土）いわきワシントンホテル 椿山荘にて「第6回市民公開講座」を開催しました。

特別講演

「がんをPETでみる」

福島県立医科大学 医学部
放射線医学講座 教授 伊藤 浩 先生



第6回目となる今回は、福島県立医科大学放射線医学講座 教授の伊藤浩先生をお招きし、特別講演「がんをPETでみる」と題して、ご講演いただきました。また、特別講演の前には当院医師の清野修先生が「がん診療と画像診断のかかわり」と題し、講演を行いました。

伊藤先生からは、陽電子放出断層撮影法と呼ばれるPETの検査について、専門的な立場から詳しい解説をいただくことができました。

PET検査は、がん細胞が正常細胞に比べてブドウ糖を多く取り込むという、がんの性質を利用します。ブドウ糖に類似した「FDG」と呼ばれる物質に放射線同位元素をつけた薬剤を投与し、FDGが多く集まる部位を画像から特定することで診断します。短時間で全身のスクリーニング検査ができることで、患者さんへの肉体的苦痛が少ないことや、CTやMRI検査で診断できない病変を抽出することができるなどの長所があります。また、がんの診断で特に、良性・悪性の識別やがんの進行度、再発診断について有用であるとの説明をいただきました。

清野先生からは、画像診断医としてのかかわり等についてお話をいただきました。画像診断医は患者さんと直接接することはありません。しかし、各診療科で撮影した画像を専門に診断する縁の下の力持ち的な存在なのです。がんの早期発見や患者さんに適切な治療を行うための、方針の立案や、予後の予測に対する重要な役割を果たしています。画像診断の機器は、CT（コンピュータ断層撮影）、MRI（磁気共鳴画像診断装置）、SPECT（単光子放出形CT）、PET（陽電子放出断層撮影法）など幅広くある種類一つひとつに対し細かく説明していただきました。

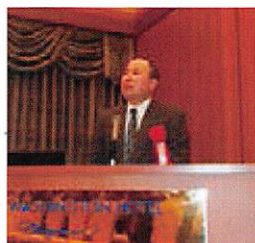
今回の市民公開講座では、市民、医療従事者総勢130名の参加があり、聴講者も大変貴重な先生の話にメモを取りながら真剣に話を聞いていました。

また、難聴や耳の不自由な人に対し、要約筆記を施行しました。先生方の講演内容を要約することにより、聴講者からはわかりやすかったと大変好評でした。

講演

「がん診療と画像診断のかかわり」

いわき市立総合磐城共立病院 診療局
主任部長 清野 修 先生



次回開催 >>> 日付：平成29年7月22日（土）予定 場所：いわき市総合保健福祉センター



「インターバル速歩」

～ 早歩きとゆっくり歩きで体力アップ～

いつものウォーキングにメリハリを加えるだけで体力アップが図れる「インターバル速歩」を紹介します。

インターバル速歩とは

インターバル速歩は、松本市と信州大学医学部が共同で研究・開発したウォーキング法です。

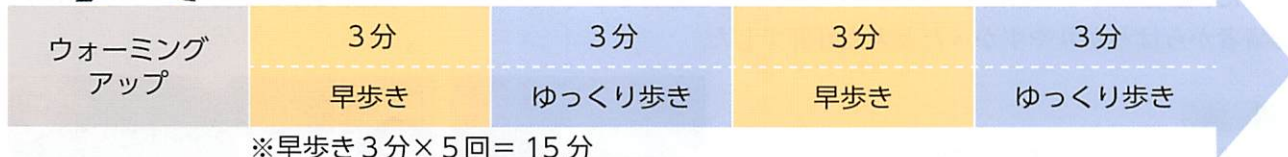
早歩きとゆっくり歩きを交互に数分間ずつ行う運動です。

インターバル速歩の効果

1日8,000歩以上のウォーキングを行うグループと1日30分以上のインターバル速歩を行うグループに分けて、5か月間、週4日以上行った結果を比較すると、インターバル速歩のグループは、体脂肪率、血圧、血中脂質など生活習慣病の危険因子の改善に加えて、太ももの筋力、持久力、歩行速度も向上する効果的な運動法です。

インターバル速歩の方法

- アキレス腱や太もものストレッチなどの準備運動は十分に
- “ハァハァ”と息が上がる程度の早歩きを3分間続けます（肘は90°に曲げ腕を振ります、膝を伸ばしてカカトから着地して歩幅は少し広く歩きます）
- 次に呼吸を整えるように“ゆっくり歩き”を3分間
- 次に早歩きを3分間続けた後に“ゆっくり歩き”を交互に繰り返します



インターバル速歩の注意点

インターバル速歩は、早歩きの合計時間が1日15分以上になるよう行うのが基本です。3分の速歩を5回でも、2分の速歩を8回でもかまいません。週に4日以上行うのがお勧めですが、無理をせず徐々に行うようにしてください。

第14回 新春 賀詞交歓会

平成29年1月13日（金）、グランパーティいわきにて「第14回 総合磐城共立病院新春賀詞交歓会（地域医療連携の集い）」を開催いたしました。

多くの方に参加いただき、和やかな雰囲気の中、皆さんがそれぞれ交流を深めました。



地域連携のつどい

総合磐城共立病院における 肺結核患者の受入れ休止等について

平成 29 年 2 月 20 日より、呼吸器内科の診療体制を次のように制限させていただいております。ご迷惑をお掛けいたしますが、当院の事情をご理解いただきますようお願いいたします。

(共立病院の診療制限の内容)

- ・肺結核患者を含む新規入院受け入れの休止
- ・外来は、コンサルテーション後の紹介患者及び再診患者の診療のみ実施

※入院が必要な肺結核患者が発生した場合は、結核病棟をもつ感染症指定医療機関へ直接連絡をしていただき、入院の調整をお願いいたします。

お し ら せ

地域医療連携にご協力下さった先生方にお届けしてきたこの「地域医療連携室だより」は、今回発行の第 36 号をもって終了することとなりました。今後は、広報委員会が新たに発行する広報誌「みまや通信」(仮称)という名称でお届けさせていただく予定です。新たな広報誌は、従来の「連携室だより」よりもさらに内容的に充実したものをお届けできるように、委員会が張り切ってその内容などの検討を重ねておりますのでご期待ください。

(地域医療連携室長 増山 祥二)

地域医療連携室への予約について

予約の際は、「**地域医療連携診療予約申込書**」及び「**紹介状 (診療情報提供書)**」を当室まで FAX にてお送りください。



また、予約に関してご不明な点がございましたら、下記まで電話でお問い合わせください。

予約受付時間 **8:30~17:00** [土・日曜日は受付していません]

いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室

電話 0246 (26)2250(直通)

FAX 0246 (26)2119

